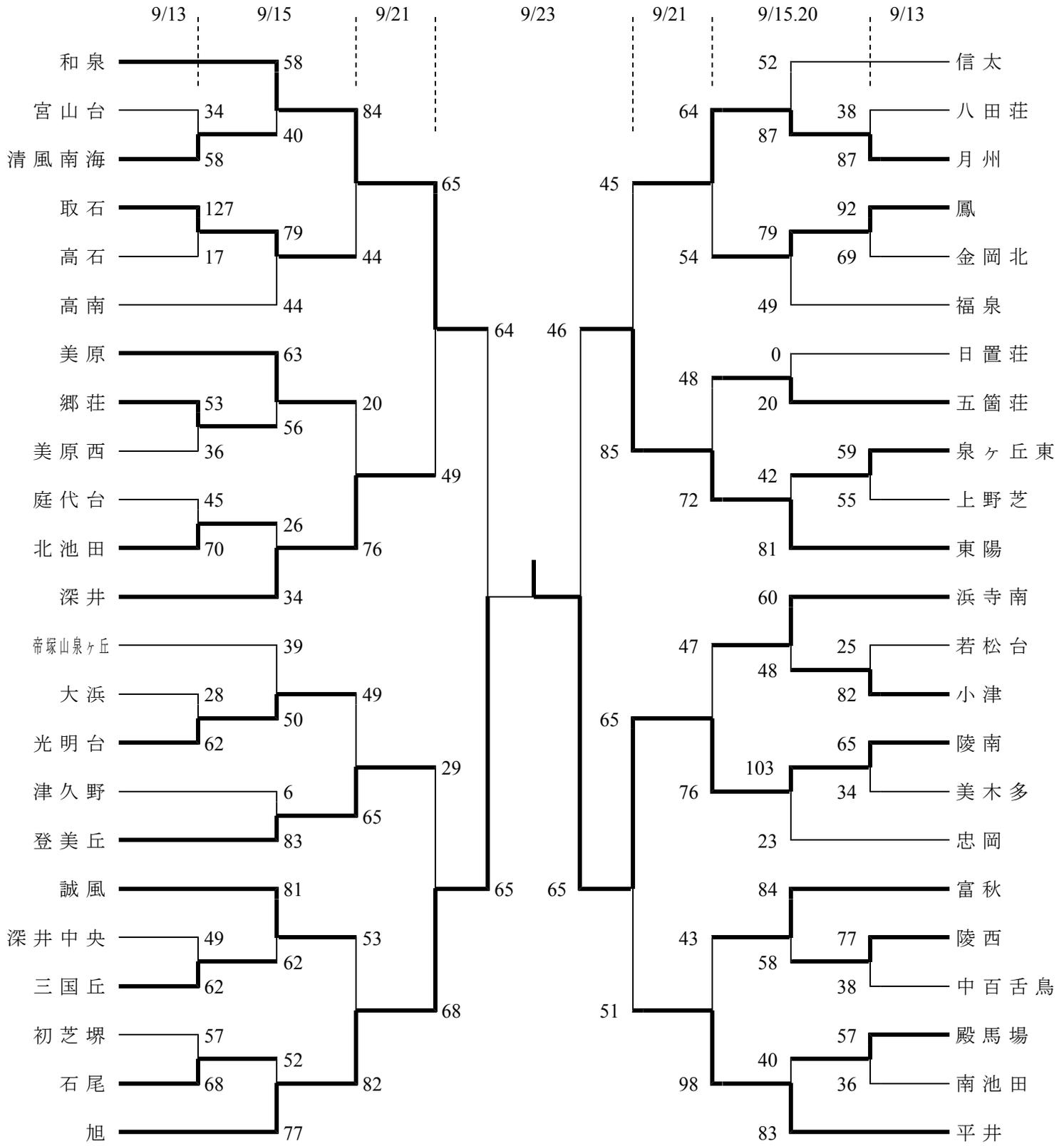


2008年度泉北地区秋季大会

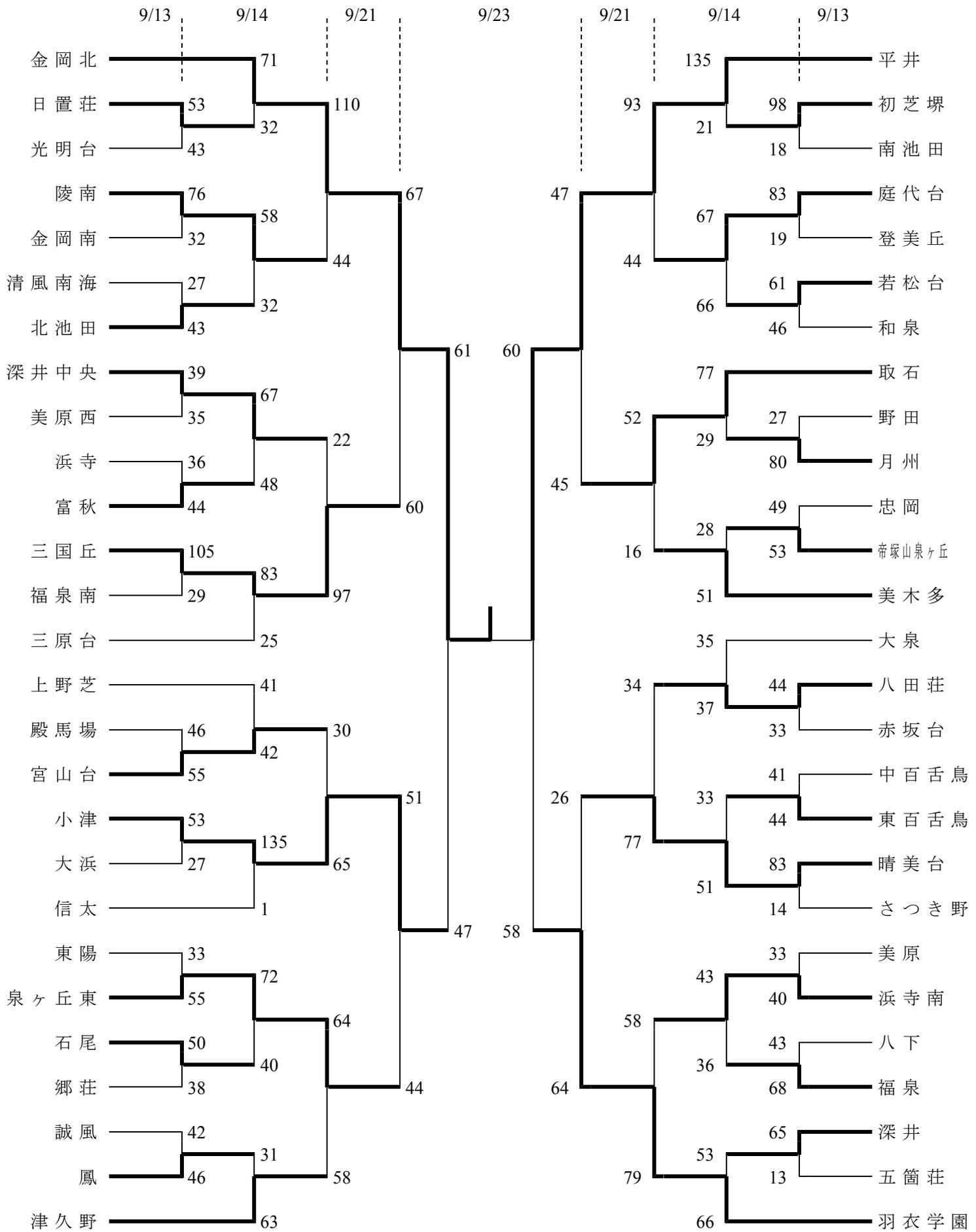
男子の部



決勝

旭 陵南
 38 — 55
 11 1Q 11
 11 2Q 12
 14 3Q 15
 2 4Q 17

女子の部



決勝

金岡北	平井
83	48
19 1Q	10
20 2Q	10
21 3Q	16
23 4Q	12

決勝戦評

◎男子

旭は2-3ゾーン、陵南はハーフマンツースタート。立ち上がりは両チーム共にミスが目立ち、流れをつかみかねる。そんな中、旭は④・⑩のペネトレイトやインサイドアウトで、陵南は④・⑦の粘り強いペネトレイトで応戦。11-11で1Qを終える。

2Qに入り、陵南はボールを⑤・⑨にまわし、ポストプレイで得点を重ねる。旭も陵南の激しいDEFに苦勞しながらもしぶとくシュートを決め、両者譲らぬ展開となる。次第に旭のゾーンが効果を発揮し、陵南はインサイドを攻めあぐねる。しかし、終了間際に旭のパスミスから陵南⑦がバスケットカウントを決め、23-22と陵南リードで前半を終える。

3Qは旭⑭のレイアップで幕を開ける。残り6分で陵南のタイムアウトを機会に旭は3クォーターの1-3-1ゾーンプレスゾーンにDEFを変化させる。一進一退の攻防が続く中、終了間際に陵南④の3Pが決まり、38-36で最後のクォーターを迎える。

4Qになると、陵南④のプレイが旭のファウルを誘い、陵南が徐々に流れを引き寄せていく。その後も陵南④の連続得点や⑨のゴール下シュートで突き放しにかかる。旭はたまたまずタイムアウトを取るが、流れは変わらず、55-38で陵南が勝利を手にした。

旭を38点に抑えた陵南のDEFが光る試合であった。

(真壁)

◎女子

金岡北は1-1-2-1ゾーンプレスから1-2-2ゾーンとオールコートマンツーマンを使いわけ、平井はハーフコートマンツーマンでスタート。立ち上がり、金岡北④⑦の3Pが立て続けに決まり、金岡北が先にリズムに乗る。平井も⑩のシュートで応戦するが、カットインプレイがなかなか決まらない。逆に金岡北⑧のリバウンドシュート、④の3Pで突き放す。平井も④が3Pを沈め反撃するが、金岡北⑤がすぐさま3Pを入れ返し、流れを渡さない。金岡北のリバウンドの強さが功を奏し、1Qは19-10で金岡北リード。

2Qになると金岡北はハーフの1-2-2ゾーンにDEFを変える。このクォーターも金岡北のOFFリバウンドが止まらない。リバウンドシュートやリバウンドからの3Pが決まり、平井を突き放しにかかる。平井も④の個人技や⑦の速攻で反撃するが、流れを変えることができず、39-20で前半を終える。

3Qは平井が2-3ゾーンにDEFを変化。しかし、動きを止めずに走りまわる金岡北の攻撃をなかなか止めることができず、残り3分のタイムアウト時で55-26。平井は⑤や⑩の連続得点や⑧のゴール下シュートで反撃するも60-36で3Qが終了する。

4Qに入っても金岡北のリバウンドは衰えず、⑥のリバウンドシュートなどで得点を重ねていく。最後は83-48で金岡北が勝利をつかんだ。

終始リバウンドを制した金岡北がその強さを発揮した。

(塩井)